

三井寺

三井寺は歴史的に、京都を靈的に守護する役割を担っていた四大仏教寺院の一つでした。672年に、弘文天皇（648-672）の皇子、大友与多王が亡き父の菩提を弔うために創建しました。この寺院は歴史を通じて何度か破壊されましたが、そのたびに再建されてきました。300 エーカー（約 1.21 平方キロ）の境内には重要な建物が 40 棟あります。そのいくつかを含め、境内には国宝の指定を受けたものが 10 点、重要文化財が 42 点あります。三井寺の宝物の多くは現代的な文化財収蔵庫に収められており、そのなかには金箔が貼り付けられた 24 枚セットの障壁も含まれます。

重要文化財の一つは大門で、1452 年に建造され、1601 年の寺院再建時に三井寺に移されました。特に注目に値する他の建物としては、湾曲した切妻屋根の鐘楼と、伝統的な八角形型の回転式経典収蔵庫を備えた経蔵が挙げられます。観音堂は琵琶湖を見下ろす高台にあり、湖と大津市中心部を一望のもとに眺めることができます。